元気いっぱい！ 夢いっぱい！

菊池っ子だより

vol.92

市内の各小中学校で行われているさまざまな取り組みをピックアップしてご紹介します。

問学校教育課　☎ 0968(25)7231

七城中学校

他校と交流し学び合いを促進

12月18日、3月13日

本校では保護者や婦人部の協力の下、新米で餅つきをしました。龍南中からは新米のお返しに、特産のタンカンをいただきました

本校は奄美大島の龍南中学校と交流を続けています。昨年12月に本校が収穫した新米を龍南中に送りました。そのコメで、2年生が立志式に鶏飯を作ってくれたそうです。3月には龍南中とオンライン交流を実施。クイズを交えた本校の紹介に始まり、ジェスチャーゲームなどで交流しました。

菊池南中学校

弁当作りで自主性や感謝の心を育む

2月24日

事前にワークシートで弁当作りの計画を立てました。生徒たちの弁当は彩りも美しく、自作したことにより格別な味になったようです

食に関心を持ち、感謝する心を育て、自主性や自立する力を養うため、「自分で作る“弁当の日”」を実施。1・2年生の生徒らは事前に「全て自分一人で行う完璧コース」や「おにぎりやおかずなどを1品以上作る基本コース」などの 6つのコースから選択し計画を立て、それぞれ自作の弁当を作りました。

花房小学校

新米を地区の高齢者にプレゼント

1月7日

昨年10月に鎌を使って全校児童で稲刈りを実施。コメを袋詰めし、地域の皆さんへの感謝の気持ちを伝えるメッセージを添えました

花房地区社会福祉協議会との合同企画で、地区の一人暮らしの高齢者に新米をプレゼントしました。児童らが育て収穫した新米を5年生が精米し袋に分け、民生委員さんに配ってもらいました。電話や手紙で「ありがとう」「元気が出た」などの言葉をもらい、児童たちは喜びややりがいを感じていました。

泗水小学校

オンラインで授業参観を実施

2月25日

コロナ禍でも学びを止めないため、オンラインを頻繁に活用しています。児童も保護者の皆さんも配信に慣れた様子でした

コロナ禍により、オンラインで授業参観を実施しました。保護者が温かく見守る中、児童は社会科の授業で調べたことや「自立宣言」を発表するなど、生き生きと表現していました。これからも新型コロナ感染防止に最大限努めながら、学びを止めることなく、工夫した学校教育活動を続けていきます。

旭志小学校

シイタケの駒打ちと木工体験に挑戦

3月11日

シイタケは「寒」の刺激と「暖」の刺激で目覚め、水管理をきちんとすれば秋と春の2回、収穫できるそう。成長が楽しみです

旭志林業研究グループの指導の下、4年生がシイタケの駒打ちに挑戦しました。種駒を打ち込んだクヌギの原木は、6年生に進級するまで山で管理してもらい、その後学校のシイタケ小屋で育てます。また、木工教室も行われ、本棚作りに挑戦。釘打ちに苦心しながらも素敵な本棚が完成しました。

高校魅力化全力通信

vol.49

今月は 菊池農業高校

問い合わせ先 ☎0968(38)2621

感動、感謝、思いやり、夢を育み未来を創る菊農生 ～あらゆる可能性を見つめ一歩前へ～

今月は、3月に卒業した2人をピックアップしてお届けします。在学中は、2人とも学業や校外活動にひたむきに励み、進路実現に向けて精進しました。

この春、2人は夢を叶えるために、大学へ進学しました。これまでの思いや出会い、そして未来への希望ー。それぞれの進路体験記を紹介します。

みんなに感謝！

辻（つじ）　そらさん
（畜産科学科卒業）

【進学先】早稲田大学 社会科学部 社会科学科

「うわ、菊池あつー」。1年次の9月、カナダから菊農に転校してきた私の第一声でした。「学校広っ」。これが第二声。ここから菊農での高校生活が始まりました。

1・2年次は得意な英語を生かしてスピーチコンテストなどに積極的に挑戦。授業では増えていく専門教科についていくため、実習時間は常に探究心を持ち続けました。

語学試験と動物に関する専門資格に絞り、合格を目指して勉強に励みました。この時は「がむしゃら」でした。自分を変えられる気がして、「内気な性格から脱却する」という思いで過ごした19カ月でした。

3年次になり、進路を決めるため調査を開始。受験する大学や学部はどんな人材を求めているのか、そこで何を得られるのかなどを丁寧に調べ、目標を明確にしていきました。

たくさんの先生の知恵とご協力で心に火がつき、自己・社会・情報・能力、そして地球を考えることで、多面的に自分を捉えることができました。不安に押し潰されながらも開き直ることができ、吹っ切る勇気も身に付きました。

気付けば12月。受験が終わり、解放感と共に自分の将来像を自問自答し、期待と不安の入り混じる感情を抱きました。「合格」という2文字までの道のりはとても長く、やめたいとあきらめかけることもたくさんありました。

そんな時、支え励ましてくれたのは、担任の先生や多くの先生でした。周りの人や家族のサポート、そして何よりも私が過ごした菊農のすばらしい環境のおかげで、ここまで頑張ることができました。

これからは自分の決めた道に進みます。これまで支えていただいた全ての人に感謝し、夢を広げていきます。31カ月の菊農生活、感激・感動・感謝の一言です。ありがとう。

高校2年次で最難関と言われる「英検1級」を取得。英語力を生かし、世界に羽ばたくことが目標です

獣医師を目指します！

林（はやし）　真那（まな）さん
（畜産科学科卒業）

【進学先】酪農学園大学 獣医学群 獣医学類

「獣医学類に受かった！」私は今、夢と希望に満ち溢れています。

阿蘇の自然の中で動物と共に育ち、もっと動物を理解したいと菊農に入学。先生や動物たちから、畜産の奥深さを学びました。農業鑑定競技をきっかけに農業関連学習にのめり込み、各大会で好成績を残すことができました。

海外のオンライン研修にも参加。日本を客観的に見ることができ、研修で得た知識は経験と結び付いて、深く自分のものになりました。

でも、楽しさばかりではありません。生産動物は経営と命を天秤にかけられる厳しさがあります。生産性のない牛を虚しく見送ったこともありました。その中で、生産動物ゆえの短い一生でも、命を最大限に発揮させたいと強く思いうようになり、生産動物獣医師を志し始めました。

入試まで、ひたすら自分を見つめ直しました。推薦の農高枠では、自分らしい経験が武器です。先生と対話を重ね、獣医師や農家を訪ねて現状を調査。息詰まることもありましたが、心の支えは寒空の下、寝そべる牛に腰かけた時の肌に伝わる温もりでした。

入試本番、小論文で後悔が残るままの面接。伝えられたのは芯の部分、「動物と人間の命に寄り添う獣医師になりたい」という思いだけでした。

全国でただ一人、酪農大獣医学類農業高校推薦枠に合格した今、ここからがスタートです。動物は言葉を持ちませんが、その分、些細な変化を見逃さず、読み取り、農家と協働しながら心身の健康を守る。さらにはポテンシャルを引き出すのが獣医師の役割だと思っています。

動物のことを一番に考えながら、農家経営に寄り添い、命が何たるかを考える。そんな獣医師を目指しています。

海外研修や各種大会、資格取得に励み、アグリマイスター顕彰制度の最高「プラチナ」に認定されました